

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4271200661
法人名	有限会社ケイエム企画
事業所名	グループホーム のんの
所在地	〒859-3806 長崎県東彼杵郡東彼杵町三根郷1441-1 (電話) 0957-46-0077

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年2月27日

【情報提供票より】(H21年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年10月1日		
ユニット数	1	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤3人, 非常勤6人, 常勤換算	3.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18000円		
その他の経費	理美容代・おむつ代 実費、光熱水費・寝具リース代 100円/日		
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250円	昼食 300円
	夕食	350円	おやつ 100円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低 79歳	最高 93歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山川医院・大安歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設5年目を迎えるグループホームのんのは、ホームから東彼杵町、大村湾を一望できる高台に位置している。施設長の父親のみかん畑であったこの土地を何かに役立てたいという気持ちと同時に、他のグループホームを訪問したことをきっかけに認知症対応型共同生活介護施設の存在を知り、ホームを立ち上げられた。入居者と職員との仲が良いのが自慢で、入居者の明るい表情にそれが表れている。約1年前に看取りの経験がある。入居時からの「このホームで看取ってほしい」という家族の希望を受け入れ、職員全員で本人と家族の気持ちを大切にしターミナルケアが行われた。医療処置中心の延命ではなく、経口摂取を最期まで行うなどその人らしい生活を重視したケアが行われた。常に前向きで学ぶ姿勢が強く感じられ、今後さらに前進していくと思われる温かみでやすらぎが自然に感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を真摯に受け止め、職員全員で改善計画シートを作成された。昨年の指摘・気づきがあった内容は優先順位をつけ、全て解決されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は昨年の自己評価票を参考にしながら、全員の意見を話し合いの中で取り入れ、それを管理者と経営者でまとめられた。年に1回、評価を行うことで日頃の見直し、振り返りにつながり初心に戻れたと評価の一連の過程が有意義に活用されたことが窺える。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年度より運営推進会議を開催される。内容はホームの紹介・役割、参加メンバーへの協力要請、相談依頼をはじめ、メンバーからの質問もあり、たいへん有意義な会議となっており議事録も徹底している。今年度の開催は、平成20年8月、平成21年2月と現在は6ヶ月に1回の開催であるが今後は徐々に開催頻度も増やし、さらに充実した会議になることを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関の目のつきやすい場所に意見箱を設置し、意見などを表せる機会を設けている。現在までに投書はないが、職員は家族の面会時には必ず声をかけ意見・要望はないか聞く姿勢があり、家族の気持ちを常に大切にしていることが窺える。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	気候、天候を考慮しながらなるべく外出し、外出先で地域との交流が多々ある。日々の買い物は地域の馴染みのスーパーへ職員と入居者数名が出かけたり、福祉体験に来られた中学生は体験学習が終了した後もホームの夏祭りに参加し、ピアノ演奏や手品の披露など出し物もされ、入居者へも好評であった。地域住民としての生活が大切にされたケア・交流が日常的に行われている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に事業所独自で「人間としての尊厳を大切にし…」という理念は作られ、入居者9人それぞれの生活を大切に、地域の中で地域住民の一員として、本人本位のサービスを実施していく思いが込められている。		日頃のサービスを行う心がけとして、グループホームの基本方針である「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」が大切にされていることは感じられたが、事業所の理念として「地域」との関係を重視していることを盛り込み、定期的に理念の見直しをされ、さらに浸透しやすい理念にされることに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所内(台所・玄関)に掲示されており、職員への周知が徹底されている。理念の実践に向けて、職員全員が入居者の特に精神面に配慮しながら、言葉かけを密に行い、関わりを多くもつように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は盛んである。夏祭りでは地域の方・家族が積極的に参加、お手伝いをされたり、町の清掃活動(缶拾い)への参加、中学生の福祉体験の受け入れ、商工会女性部のタオル寄贈などで地域住民と入居者の交流の機会が多くみられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、昨年の自己評価票を参考にしながら職員全員で意見を出し合い、管理者と経営者でまとめられた。評価の一連の過程が日頃のケアを見直す良い機会となり、振り返りに繋がっている。昨年の評価で指摘を受けた項目は改善計画シートを作成し早期の改善に向けての取り組みがあった。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より、運営推進会議が開催された。今年度の実施は現在までに2回と半年に1回の開催頻度である。会議内容としては、グループホームの紹介・役割、地域への協力要請、参加メンバーからの質疑応答など有意義な会議となっており、議事録も徹底されている。今後も介護保険制度についてや外部評価の結果報告など議題内容も考案されている。		半年に1回の開催には至って内容も充実しているが、徐々に開催頻度を増やし、現在参加されていない町の職員にも入ってもらい色々なメンバーの意見を反映させ、情報を共有しさまざまな課題を検討されていく中でさらなる質の向上を期待したい。

グループホーム のんの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問があれば早急に町や地域包括支援センターに相談する姿勢がある。最近では自主入居の方がおられ、密な連絡調整をとられている。また毎月、管理者が町の公民館で開催される事業所会議に出席され、町全体の介護・福祉サービス事業所を交えての話し合いも行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的には毎月のお便り「のんからのメッセージ」でホームからのお知らせ、行事案内などと共に入居者一人ひとりの一ヶ月間の様子を受け持ち職員が個別に記載している。緊急時や体調変化時など必要と判断した場合は電話で随時連絡を行い、「報告記録」に残している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年より、訪問者がすぐ目に着きやすい場所と箱の色を工夫されて意見箱を設置された。家族の気持ちを常に尊重され、面会時には意見や要望がないか声をかけたり、行事ごとには家族の参加も促すなど家族等の意見を聞き反映させていこうとする姿勢が感じられた。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ一年は職員の異動もなく落ち着かれたが、以前は職員や管理者の離職もあった。現在は職員全員が明るく笑顔で、経営者も「職員が自慢です」とのことだった。職員に対し、毎月のホーム会議では小さな気づきでも話してもらい配慮がある。職員が止むおえず交代する場合は、引継ぎ期間を1ヶ月設け入居者へのダメージがない工夫がある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は意欲的であり、今年度から研修報告書も作成された。社協主催で町のセミナーとして3町合同でも行われている。参加できなかった職員に対しては、毎月のホーム会議での共有がはかられ、その会議の中でも内部研修として最近では業務の見直し、記録などの勉強会が開催された。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームと合同でレクリエーションを行う際や研修のグループ討論の中などで、同業者同士が話す機会があるが、交流を通じた向上までには至っていない。管理者や経営者が他のホームを見学したり情報交換は行っている。		将来は連絡協議会を町内のグループホームで立ち上げることを希望されている。実現後は、管理者レベルだけではなく職員同士の交流が図られることが期待できる。徐々に職員同伴でのグループホーム見学や職員交換研修なども行うことで、他のグループホームを知り、さらなるレベルアップに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ケアマネジャーの紹介を経て、本人・家族がホームに見学を訪れ、管理者が職員が自宅を訪問し情報収集後に入居に至っている。ホームの生活に馴染める工夫として、なるべく顔なじみのケアマネジャーに訪問してもらったり、家族に面会を勧めたり自宅に電話し家族と話す機会を設けるなどの支援がある。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者に教えていただくことが多く、例えば昔の話、野菜の育て方、漬物の漬け方、季節に応じた過ごし方などさまざまである。入居者は食事の準備や茶碗拭き、洗濯物たたみ、掃除などそれぞれ役割があり、職員は感謝の気持ちを持ち、共に過ごし支えあう関係がある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>現在、思いや意向の把握が困難な方がいるが、顔の表情や行動、ふとしたときに出る「さみしい」などの本音に対し、優しく対応されている。またコミュニケーションを密にとることで把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を意識し、日々の記録は目標の番号を記載し、それに応じて入居者の様子や状態の記載を行っている。プランの作成はこの記録を元にし、職員の意見を加え、ケアマネジャーがまとめている。しかし問題点や必要なケアを検討していくとなるとやや困難といえる。</p>		<p>日頃からプランを意識した記録をしていくことは大事と思われるが、記録が重複してとられている面もあり負担や必要以上の時間を要しているのが現状である。最低限必要な部分を残したり、介護記録の中でも特に変化があった事項は黒字ではなく色を変えて記載するなど、スムーズなプラン作成に繋がる工夫に期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のホーム会議の中で、職員全員が気づきを出し合い、介護計画の作成や見直し(3ヶ月毎)を行っている。見直し後は説明し家族の同意・理解を得ている。また、日々の各入居者の申し送り事項は台所の目のつきやすい場所(ホワイトボード)へ記入し、職員の情報の共有をはかっている。</p>		

グループホーム のんの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけ家族にも協力してもらい、町内外への通院介助を行っている。また最近では、独居の方で自宅ではどうしても困難な方の入居を町や家族と連携をとりながら受け入れる緊急自主入居を行い、柔軟な支援に対応していることが窺える。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況、本人や家族の要望を大切に、希望に応じてかかりつけ医の受診の支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	約1年前に看取りの経験がある。入居時時点での家族の希望があり、職員全員がニーズに応じてケアに取組まれた。家族や協力医と連絡を密にとり、最期まで経口摂取への支援がなされるなどその人らしい生活を大事にした支援が行われた。永眠された後も職員が告別式に参列し、しばらくは部屋を片付けられなかったエピソードには家族以上の思いや関わりがあったことが強く感じられた。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の観点から、職員全員の守秘義務誓約書の作成を今年度より実施された。家族と本人に入居者に対して下のお名前と呼ぶことに了解を得てプライバシーを守りながらも親しみやすい関係づくりに配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示される方は、その日にしたいことを言葉で言われることが多いが、それができない方に対しては、表情や細かな動きの観察で気持ちを汲み取る工夫がある。希望に沿った支援に関しても共に食材の買出しにいくなど柔軟な対応をされている。		

グループホーム のんの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所からいただく野菜、入居者と共に買い物で入手した食材で野菜中心のバランスの良い家庭的な食事を提供されている。食事前に入居者の一人が「いただきます」と感謝の言葉を述べ入居者全員で手を合わせる姿があった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回の入浴日を設けているが、その日以外でも希望に応じて入浴可能である。入浴介助拒否者に対しては、職員が時々見守りながら一人で入浴してもらったり、必要時には清拭、足浴を行い全員の清潔の保持に努めている。湯温の確認は湯温計を使用し安全管理に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、片付け、掃除、洗濯、草むしりなどそれぞれの役割がある。職員もその人のペースに合わせてながら無理強いしない支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬場は外出の頻度が減るが、月に2回バイキングに出かけたり、大村湾や西海橋、遠方の雲仙へのドライブなど色々な場所へ外出されている。日頃から全員が外出できるように起立訓練を実施され下肢筋力低下予防に努めている。日常的にも馴染みの町のスーパーや理美容室へ出かけそこで近所の方との交流もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠はしておらず玄関の扉が開くとセンサーで音が鳴るしくみになっている。外出傾向の入居者に対しては、外出を制限せずホーム周辺を散歩してもらったり職員が少し離れたところから見守り、安全面を確保しながらニーズに応じた対応がされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いの下での消防訓練に加えて、夏期と冬期に自主訓練も行っている。昨年は地区の消防団からの協力要請で、早朝6時の火災を想定した訓練を行い、町の消防団が集結しての訓練が行われた。非常時の備えとしては、食料・水・コンロなどの備蓄が整っている。		さまざまな災害(夜間・地震・台風・水害)を想定した訓練が必要と思われ、使いやすく活用しやすい災害マニュアルの整備や、非常持ち出し品(全身写真付きの個人記録、薬・救急用品など)の確認・整備が早急に行われることに期待したい。

グループホーム のんの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	誤嚥防止のため食前に毎月の歌(民謡など)を入居者と職員が手拍子をしながら歌う姿は、なんとも和やかであった。献立は栄養士の資格を持つ職員の家族にアドバイスをもらい作成している。水分補給については、毎食後、10時、15時、必要に応じて深夜に摂取を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからの眺めは最高で町を一望できると共に日当たりが良い。熱帯魚やホームの猫が3匹いるがホームの生活に馴染み微笑ましい。天気や気候が良いときはリビングに隣接したデッキに出て日光浴・外気浴も可能である。2ヶ所あるトイレの位置の天井近くには入居者がわかりやすいよう、大きめのちょうちんが下げられており、入居者への細かな配慮がみられた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはやわらかな優しいイメージの花の名前(たんぼぼ、かすみ草、すずらんなど)がつけてある。入居者それぞれが今まで使い慣れたタンスなどの家具を持ち込まれたり、家族や昔の写真も飾られ個性的な部屋となっている。		